

2026年2月19日
株式会社竹中工務店

使用済み割り箸のアップサイクルに向け始動 コクヨ・ChopValue Japan と建物への適用拡大へ向け協業

竹中工務店（社長：佐々木正人）は、コクヨ株式会社（本社：大阪市／社長：黒田英邦）、カナダに本社を持つ循環型製造企業のChopValue Manufacturing Japan株式会社（本社：東京都港区／代表取締役：James Soback、以下、「ChopValue Japan」）と、使用済み割り箸のアップサイクル技術の、建築空間およびオフィス家具への適用拡大を目指したパートナーシップ（共同研究契約）を締結しました。

■背景

使用済み割り箸は日本で年間約200億膳が使い捨てられています。それらをアップサイクルしオフィスをはじめとしたさまざまな建物へ導入することにより、ゴミの削減やCO₂固定に寄与するだけでなく、身近な素材のアップサイクルを通じて人々の意識の変化や文化の醸成に貢献します。

当社が提唱する「サーキュラーデザインビルド®」（「つくる」・「つかう」・「つなぐ」をキーワードに、多様なステークホルダーとの協業でサーキュラーエコノミーを実現するコンセプト）の実践として、本取り組みを推進していきます。

■パートナーシップの内容・役割分担

- ・コクヨ、竹中工務店のそれぞれの事業所の割り箸の回収に関する実証試験を行い、日本における適切な回収体制・ロジスティクスの構築を目指します。
- ・ChopValue Japanのアップサイクル技術を活用し、コクヨは文具・家具の、当社は建材の新用途・新製品の開発を進めます。
- ・コクヨ・当社が開発した建材や什器を用いて設計された空間に関して、エンドユーザー・デザイナーの印象評価等を3社で協業しながら実施します。

建物から廃棄される箸をアップサイクルして建物に戻す循環構築に取り組みます

CHOP VALUE



廃棄箸アップサイクル

KOKUYO 文具・家具

 TAKENAKA 建築・建材

アップサイクル製品開発

- ・用途開発して製品化
- ・防耐火等の性能改良して認定取得

廃棄箸収集ロジスティクス構築



建物空間

3社協業の狙い

■今後の展開・期待される効果

上記の取り組みから得られる知見や実績を活かし、ChopValue Japanの先進的なエンジニアリング技術の建物空間への展開を推進します。

当社においては自社の事業所や建設現場で回収した割り箸を内装材や建材、家具什器等にアップサイクルし、建物の設計提案や自社物件において活用します。また建築主や自治体、地域の方々と力を合わせ、箸集めからアップサイクル製品の建物への導入までの、川上から川下までを網羅したサーキュラーエコノミーの取り組みを幅広く展開します。

将来的には ChopValue Japan の持つ廃棄物を板材にする技術を他の建築廃棄物のアップサイクルにも応用展開することを目指し、資源循環の取り組みを推進していきます。

また、ChopValue Japan、コクヨ株式会社との3社共同研究に加えて、当社は ChopValue Japan との2社共同研究を締結し、内装材の幅広い建築物への適用に必要な内装材の防火認定取得のための検討を行います。



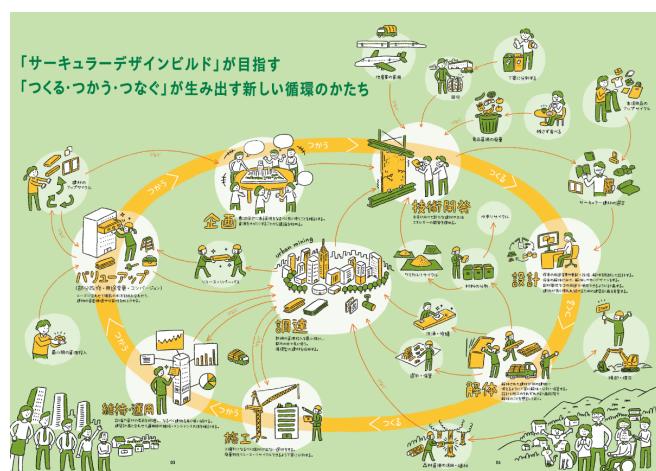
当社作業所での割り箸回収状況



使用済み割り箸から製造された板材（社名ロゴ）

◆取り組みの目的

当社は「つくる」・「つかう」・「つなぐ」をキーワードとした、多様なステークホルダーとの協業でサーキュラーエコノミーを実現することを目指した「サーキュラーデザインビルド®」というコンセプトを提唱しています。これまで捨てられていた材料をアップサイクルし、まちや建物に循環させていくサーキュラーエコノミーの取り組みを進めています。



サーキュラーデザインビルドが目指す姿

◆ChopValue Manufacturing Japan 株式会社

- ・使用済み割り箸の什器や建材へのアップサイクル技術を有するカナダの循環型製造企業
- ・2016年創業、これまで10か国で事業展開し 2025年4月に日本の第一号工場を川崎市に開設